

普及活動情勢報告（令和2年12月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

ユズ園地の調査を実施



農業改良普及課は、安芸市におけるユズ園の状況を把握するため、10月下旬から関係機関とともに園地調査を行っています。「どこで」、「何本」、「どのような樹体」等を記録しておき、今後の耕作放棄対策や園地流動化、担い手対応等に繋げる基礎資料にしたいと考えています。

収穫中の生産者に話を聞きながら、スムーズに調査を進めることができました。「もう、自分たちしか生産していない」という地区もあり、高齢化や担い手不足の波がきていると感じられました。

これまでの調査で、対象の6～7割が完了しました。

今後も農業改良普及課は園地調査を継続し、ユズ産地の維持に向けた支援を行います。

病虫害防除対策を実践していきましょう ～安芸支部園芸部園芸研究会総合部会の開催～



11月26日、安芸集出荷場において総合部会が開催され、ナス、ピーマン、米ナス、ミョウガ生産者42人が参加しました。

現地研修を行った後の勉強会で、農業改良普及課からは、「ナスにおける湿度制御による病害防除」、「スワルバンカーのナス苗処理によるチャノホコリダニ被害防除効果の実証」について、安芸地区での試験状況を報告しました。また農業技術センター昆虫担当を招き、「ハスモンヨトウの薬剤感受性と防除対策」について講演しました。生産者からは農薬の選択方法やハスモンヨトウトラップの効果など、多くの質問がありました。

農業改良普及課では今後も効果的な病虫害対策について指導します。

葉ニンニクの産地化を目指して ～先進地視察研修の実施～



11月27日、葉ニンニクの栽培技術習得および出荷時の荷造り方法を確認するため、中芸集出荷場管内の葉ニンニク生産者および関係者計6人が、先進産地である南国市を視察研修しました。

農業改良普及課は研修を企画し、南国市の栽培ほ場では今年の生育状況や管理のポイントを、荷造り施設では荷姿や荷造りでの注意点を中心に研修しました。

参加者は「生育不良はネダニの発生がないか確認が必要」、「荷造りでは根部をしっかりと洗浄する」など基本的な事項を確認しました。

12月上旬からの本格的な出荷に向け、農業改良普及課は今後も葉ニンニクの生産拡大の取組を支援します。

協業品目の加工用ニンジン収穫（農事組合法人庄毛ファーム）



農業改良普及課室戸支所は、室戸市吉良川町のほ場整備予定地でニンジン栽培に取り組む「農事組合法人庄毛ファーム」に、8月から栽培指導および販売のコーディネートを行っています。

栽培面積 10a の一部 (8m² 分) のニンジン を 12 月 2 日、庄毛ファーム理事 2 人と室戸支所職員で初収穫しました。

30 分ほどで収穫した 120 本のニンジンは、同日に市内指定障害者福祉サービス事業所「むろとうみがめ」に運ばれ、水洗・皮むき・カットされた後、おでんの具材用などとして、地元加工販売業者に向けて出荷されました。

今後、庄毛ファームは 2 月まで週 1 回の出荷を計画しています。次年度は周年栽培を目指しており、室戸支所は継続して支援します。

タブレットを使いテレビ会議で実施！ ～中芸地区で第 2 回グループ学習会～



12月18日、中芸地区のナス養液栽培者を対象に第2回目の現地指導及びグループ学習会を開催しました。今回は、新型コロナウイルス対策としてテレビ会議での対応となり、学習会には生産者5人が参加しました。

現地指導では、農業改良普及課と（株）デルフィージャパンの環境制御技術アドバイザーが生育状況や根域の状況を確認し、ハウス管理温度等の設定などをアドバイスしました。グループ学習会では現地指導の報告や湿度管理等の説明をしました。

テレビ会議は対面での質疑応答と勝手が異なり、参加者が戸惑う場面もありましたが、給液と排液の EC 値の判断について質問があり、養液栽培ならではのディスカッションができました。

農業改良普及課は、今後も地域の栽培管理技術の向上と環境制御技術の普及を行います。